

【ポスター発表】

アメリカ南部白人女性による慈善と反リンチ活動
—20世紀の活動家 Dorothy Rogers Tilly を中心に—

○ 島根大学 氏名 西崎 緑 (00410)

キーワード3つ：Dorothy Rogers Tilly, 人種差別, ソーシャルアクション

1. 研究目的

20世紀のアメリカを対象とした社会福祉史研究は、主として北部大都市を中心としたソーシャルワークの発達やニューディール以後の福祉国家政策を中心課題として取り上げてきたため、南部における慈善活動史については、未だ不明なところも多い。本研究の目的は、20世紀前半の南部における白人女性の慈善活動と半リンチ活動を、ジョージア州のリーダーとして活躍した Dorothy Rogers Tilly の活動を中心に明らかにすることである。

2. 研究の視点および方法

(1) 研究の視点

a) 南部における貧困は、制度的人種差別を核として生じていた。:20世紀前半の南部では、人種隔離制度によって黒人の人権、政治経済的権利、教育の権利をはく奪し、その体制維持のために私的制裁（リンチ）と公的制度を暴力」が用いられていた。

b) 白人女性は、南部社会の信仰と道徳を守る存在として慈善活動を行ってきた。:南部では、白人女性も白人男性の支配下にあったが、一方でキリスト教に基づく道徳を家庭やコミュニティにおいて実践する役割を担う存在として位置づけられてきた。

c) 人種隔離の撤廃をできる限り平和的に行うことを白人女性たちは目指していた:白人女性は、児童福祉や教育の機会の提供という慈善活動を行うだけでなく、中には裁判傍聴活動を通して、南部社会の社会正義を実現しようとする者たちもいた。

(2) 研究方法

文献及び一次資料（Dorothy Rogers Tilly Papers）の精査により、事実を確認する。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理規定に基づき、引用の際には、自説と他説を峻別し、原著者名・文献・出版社・出版年・引用個所を明示する。

4. 研究結果

① 社会事業への関心が高いメソジスト教会の信仰が白人女性たちの活動の基盤にあった。
例えば Tilly は、メソジスト教会牧師の娘として生まれ、1899年 Reinhardt 短大を優等生

として卒業し、1901 年には Wesleyan College も優等生として卒業した。1903 年、アトランタの化学薬品販売会社に勤務する Milton Eben Tilly と結婚し、1904 年ひとり息子の Eben を出産した。彼女は生涯を通じて虚弱体質であったため、出産後、医者から、これ以上の妊娠出産を避けるようにアドバイスを受けた。以来、夫の勧めもあり、彼女は、メソジスト教会での活動に邁進することとなる。彼女は、まずメソジスト教会の女性伝道会議 (the Women's Missionary Society, WMS) に所属し、児童向けの宗教教師としてボランティア活動を始めた。1918 年から 1931 年にかけて Tilly は、ジョージア州北部における WMS による児童教育・福祉事業を運営するようになり、次第にメソジスト教会の女性たちへの影響力を強めていった。

②抑圧され貧窮する黒人たちとの出会いがやがてソーシャルアクションに発展する。

例えば Tilly は、1930 年には黒人の生活向上のための働きを強めていく。そのきっかけとなったのは、1920 年代末に夫 Milton の誘いで訪れた Piedmont Hotel の裏口で、飢えた黒人児童がゴミ箱から食べ物を探す姿を見たことである。彼女はその姿にショックを受けたが、夫からこのような情景を見たくないなら、他の人々にも話して何とか解決の道を探るべきである、と諭された。彼女がまず起こした行動は、人種間協力委員会 (Commission on Interracial Cooperation, 以下 CIC) への参加であった。CIC の主な活動は、リンチ、集団暴行、借金返済のためのただ働きに反対し、黒人に対する暴力が社会の道徳に与える影響を白人に理解させることを目指して人種間の協力を促進する啓蒙活動を行うことであった。そのためキリスト教会関係のさまざまな会議に出席するたびに、彼女は、南部における人種間関係について話すようになっていった。また彼女は、黒人少女のための職業訓練学校を設立しようとしたが、州知事 Eugene Talmadge に妨害された。しかし 1942 年の知事選挙で Talmadge を落選させ、当初の計画通り、州議会の承認を得て学校設立を実現した。1949 年には Fellowship of Concerned を設立し、南部の女性たちを組織して公正な裁判の実現による社会変革を図った。

5. 考察

20 世紀前半には、Tilly たち白人女性の慈善活動とソーシャルアクションは、抑圧された人々の代弁的機能を果たした。ニューディールと第二次大戦を経験したのち南部社会は、大転換と緊張に包まれるが、Tilly たち白人女性たちの活動は、立ち上がった黒人女性たちとの連携の中で公民権運動を支えた。専門ソーシャルワークではない、(特にメソジスト) 教会女性たちの活動が、静かな社会変革を支えていったと言っても過言ではない。

なお本研究発表は、科学研究費補助金基盤研究(B) 17H02409「共鳴かつ葛藤する闘争—公民権運動の相対化による 1960 年代の社会運動分析—」の研究成果の一部として報告するものである。